

2025年1月



CWS JAPAN NEWSLETTER NO.100

いつもCWS Japanの活動に温かいご支援、
ご理解をいただき、ありがとうございます。
皆さまのおかげでニュースレター発行が100回目を迎えることができました。

能登半島地震から1年 CWS JAPANが目指す 災害弱者支援

ディレクターの牧です。今年は大規模災害が起きないことを祈りつつお正月を過ごしました。能登半島地震発生から1年に合わせ、年明けから新聞を開けば、連日のように、災害関連記事が続いています。CWS Japanの能登半島での支援活動を振り返りつつ、CWS Japanが目指す災害弱者支援についてお伝えします。

1年前の元日

1年前の元日、能登半島で発生した大規模災害によって、何とも重苦しい年明けを迎えたのが、昨日のこのように思えます。発災直後、関係団体である日本基督教団事務局から輪島教会が被災したという知らせが入りました。当時、奥能登の全インフラが壊滅状態。宿泊施設もなく、他団体も金沢から半日かけて被災現場に通うような状況でした。多くの被災者が県内外に開設された広域避難所に移る中、輪島教会の牧師は、隣接する、被害を受けて壁に穴が開いたままの自宅で愛猫と一緒に在宅避難を続けていました。

苦戦した能登支援

当初から、能登支援をするなら、この被災教会が立つ輪島市と決めていました。わたしは発災から18日後にまずは金沢に向かい、現地パートナーと考えていた団体の代表を訪ねました。しかしながら、その団体は、その後金沢市内に開設された広域避難所にてお弁当配布の支援を始めることになったことから、わたしたちはなかなか輪島で活動が始められず



被災した輪島教会 ©CWS Japan

にいました。そんな時、「輪島に炊き出しに行きます！」と、隣県福井市の教会から連絡を受け、3月に入って、ようやく輪島での支援が始動しました。



輪島市内の小学校で行った最初の炊き出し
©福井キリスト教会

男性被災者はどこに？

その後、わたしたちは輪島の小学校・避難所・仮設住宅の集会所を借り、福井市から通いで移動食堂やカフェを開く活動を続けてきました。そんな中で気づきがありました。炊き出しで食事を提供する時にちらほらと見えた男性被災者の姿が、交流目的のカフェ活動に移行してみると、全く見られなくなったのです。まるで、仮設住宅には男性が居住していないのかと思えるほど、毎回、集会所のカフェに集まる参加者は高齢の女性たちばかりが続いています。

最近、全国的に子ども食堂やカフェなど居場所活動が増加傾向にありますが、わたしの知る限り、圧倒的にボランティアも利用者も女性中心です。男性は一体どこにいるのでしょうか。



ぬくもりカフェ@仮設住宅集会所 ©福井キリスト教会

災害関連死と福祉的支援

一方で、能登半島地震では、避難生活の疲労やストレスなどで体調を崩して亡くなる「災害関連死」として276人（2025年1月6日時点）が認定されました。この数字は建物倒壊などで亡くなる直接死者数よりも多く、また2016年の熊本地震を上回りました。

参考：

NHK.石川能登半島地震 新たに15人を災害関連死に認定 死者504人に.2024.12.27

政府は、このような長期化する避難生活によって、体調悪化が原因による災害関連死のリスクを低減する取組を本格化させようと、配慮が必要な被災者や在宅避難する高齢者などへの生活面の支援強化を目指し、災害救助法の救助項目に福祉的サービスを追加する改正案を国会に提出することを決めました。

参考：

福祉新聞.防災に福祉支援充実 首相、法改正を指示.2025.1.6

CWS Japanのチャレンジ

この動きは、CWS Japanが目指す災害弱者支援に合致するものと考えています。わたしたちが日ごろから行っている潜在的災害弱者の特定や生活相談とフォローアップ、伴走支援、福祉職関係者とのネットワーキングは、有事にも適用でき、その実績を日々積みながら、チーム内には社会福祉士有資格者がおり、専門的知見をも蓄えています。

2024年4月、孤独・孤立対策推進法が施行されました。孤独死現状レポートによれば、孤独死の男女比率は男性83.5%に対して女性が16.5%と圧倒的に男性が多い結果が出ています。

出典：

一般社団法人日本少額短期保険協会 第9回 孤独死現状レポート 2024.12

この問題は都市部のみならず、被災地でも見られる現象であると考え、早速、現在、新宿区大久保で運営しているコミュニティカフェの活動でも取り組みを始めたいと考えています。

ただ、災害支援の問題は、災害が「いつ・どこで」起きるか予測がつかないことです。そこで必要なのは、ネットワーク力であり、そして最も被災地に近いところにわたしたちの仲間がいて欲しい。それをわたしたちの強みにしていくことがCWS Japanの目指すところ です。

（文：ディレクター 牧由希子）

阪神・淡路大震災 から30年を迎えて 記憶と教訓を活かし続ける

皆さんこんにちは。事務局長の小美野です。1995年1月17日の早朝、兵庫県南部を襲った阪神・淡路大震災から、30年の歳月が流れました。6,400名を超える尊い命が失われたあの日の記憶と教訓を、わたしたちは実践し、次世代へと確実に引き継いでいかなければと考えています。ちょうどコロナ禍前に神戸に引っ越し、神戸市民になったことで、あの震災の教訓をより身近なものとして感じるようになりました。

教訓を「活かす」こと

震災を直接体験していない世代が社会の中核を担う時代となった今、経験と教訓の継承は新たな段階を迎えています。例えば、神戸にある阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センターでは、最新のVR技術を活用した震災体験プログラムの提供や、震災証言のデジタルアーカイブ化を進め、若い世代への「伝承」から主体的な「学び」への転換を図っています。震災遺構の保存・活用、震災学習プログラムの開発、防災教育の充実など、単なる記憶の伝達にとどまらない、実践的な教訓の継承が進められています。

最近わたしの息子も同施設を訪れ、子どもながらに色々考えることがあったようです。その後「あの震災の詳細をより知りたい」と自分で学ぶようにもなりました。改めて、学んだことを活かす転換が重要だなと感じます。

南海トラフ地震など今後の災害に向けて

大震災はまた起きるでしょう。「もし起きたら」ではなく、「いつ起きるか」という視点で、あらゆる場所で防災・減災を進めていくことが重要だと思っています。定期的な防災訓練、地域の防災マップづくり、災害時要援護者への支援体制の構築など、日常生活の中に防災の視点を組み込み、世代を超えて継承していく取り組みが広がっています。震災の経験は、コミュニティの防災力向上や、「自



阪神・淡路大震災から30年を迎えて
—記憶と教訓を活かし続ける—



助・共助・公助」の新たな形の確立にも活かされています。ただ、これらを実行するには「もう一步進もう」という前向きな姿勢も必要です。超高齢化社会になっている今、ためらわず前向きに防災・減災を進めていけるよう、我々世代がやるべきこともたくさんあります。

本質的な問い：震災の記憶と教訓を継承していくには？

今、気候変動に伴う災害の激甚化（げきじんか）や、新たな都市リスクの出現など、わたしたちを取り巻く環境は大きく変化しています。しかし、阪神・淡路大震災から学んだ「命の大切さ」「人と人とのつながりの重要性」という本質的な教訓は、時代が変わっても色あせることはありません。この30年という節目に、犠牲となられた方々への追悼の意を新たにするとともに、「震災の記憶と教訓をより実践的で創造的な形で継承していくには何をすれば良いか」ということを本質的な問いとして考え、実践していきます。過去に学び、未来を創る。その決意とともに、より強靱で包摂的な社会の実現に向けて、共に歩んでまいりましょう。

阪神淡路大震災から30年を迎える今、「忘れない」というメッセージを超えて、「活かし続ける」という継承のかたちを、この神戸の地から発信していきたいと思えます。

（文：事務局長 小美野剛）

日本における早期減災 アクションの現状 (ANTICIPATORY ACTION IN JAPAN)

こんにちは、インターン生の村上です。皆さんは「減災」という言葉を耳にしたことがありますか？わたしたちに馴染みのある「防災」から少し発展した考え方の「減災」について、具体的な事例を交えつつ今回と次回の2回でご紹介したいと思います！

早期減災アクションとは

日本では防災という言葉の方が浸透していますが、減災は、災害が起きた際に、被災をゼロにすることは難しいという考えのもと、その被害を最小限に抑えることを目的としたものです。予測される災害を先取りして行動し、人道的に深刻な影響が完全に拡大する前にそれを防止または軽減することを、早期減災アクション(英語ではAnticipatory Action)と呼んでいます。

海外では注目を集めている減災ですが、日本ではまだあまり浸透していないように感じます。

《出典》

[UNOCHA.Anticipatory action](#)

事例①釜石の奇跡

震災当時、非常に注目され、ニュースでもよく取り上げられていたので、ご存じの方も多いかと思います。これは、2011年の東日本大震災の際に、行政による支援が期待できない状況のなか、岩手県釜石市の児童が、日頃の防災教育で学習したことを活かして、自発的に地域住民とともに避難行動を行ったという事例です。津波によって、東北地方沿岸部には甚大な被害が出ましたが、海から500mの位置にある釜石東中学校および鶴住居(うのすまい)小学校の児童・生徒約570名は、地震発生と同時に率先避難を実施し、多くの命が助かりました。日頃の避難訓練などの防災教育が功を奏した事例です。



日本における早期減災アクションの現状
(Anticipatory Action in Japan)



事例②人的被害ゼロの西日本豪雨

2018年に起きた西日本豪雨。海と急傾斜地に挟まれた松山市高浜地区は、35カ所で土砂崩れが発生し、住宅7棟が全壊しましたが、犠牲者は1人も出ませんでした。高浜地区の自主防災連合会の会長はその要因を「当時いち早く土砂崩れの発生に気づき、自主防災連合会のメンバーが中心となって直接住民に避難を呼びかけたこと」と語っています。

早期減災アクションの調査を進める中で、高齢者や障害者に避難を促すというのは、一つの難しい課題であるように感じ、この西日本豪雨の事例のように多くの高齢者の方を避難に導いている裏には相当な努力があったのだと伺えます。近しい人からの避難の呼びかけは心に響くという点からも、平時からの自治体やコミュニティのつながりが大切なのだ改めて感じました。

《出典》

[テレビ愛媛.西日本豪雨から3年 “犠牲者ゼロ”の松山市高浜地区が直面する課題「コロナ対策で避難所が足りない」.FNNプライムオンライン.2021.9.12](#)

事例③

住民の声で設置された避難用階段

記憶に新しい2024年の能登半島地震の復興は今も続いています。減災という視点から見ると、早期減災アクションが住民の命を救った事例がありました。

能登半島の先端に近い珠洲市三崎町寺家では、地震の発生後まもなく津波が押し寄せ、海岸沿いに建ち並ぶ住宅が被害を受けました。最大で13.5メートルの津波の被害想定があるこの地区は高台の集会場を避難所とし、「なにかあったら集会場へ」という合言葉を

共有し、毎年欠かさず避難訓練を実施して
きました。また、東日本大震災の後には、住民
が市に要請しておよそ100段ある階段を設
置し、避難ルートのひとつとしました。実際
に住民たちは、今回の地震でこの階段を使
うなどして集会場に移動し、全員が無事だ
ったそうです。

《出典》珠洲市 事前に設置した避難用階
段で津波から住民の命を守る.NHK.2023.1.22

実は日本の早期減災アクションは進 んでいる

この記事では国内の早期減災アクションの
事例を3つご紹介しましたが、これも減災に
当てはまるのか！といったような、減災ア
クションと意識せずに行っている事例も
多くあるように感じました。災害の多い
日本はそれだけ知見もたくさんあるので、
今後日本でもっと減災という考え方が
広まり、世界をリードできるような存
在になれたらと思います。

(文：インターン 村上琴美)

カリフォルニア・ ロサンゼルス山火事 緊急支援への ご協力をお願い

CWSは、2025年1月7日にロサンゼルス郡で
発生した大規模な山火事に際し、緊急支
援を開始しました。

CWSは、現地での復興作業を支え、特に
社会的に弱い立場にあるコミュニティに
焦点を当てて支援に取り組んでいます。
高齢者、障害者、少数民族、そして
移民や難民などが支援から取り残され
ることがないように努めています。

さらに、パートナー団体と連携して長
期的な復興計画を策定し、被災地域の
コミュニティが持続可能な形で立ち直
るのを支援してまいります。引き続き
皆さまからの温かい支援をお待ちし
ております。

▼最新情報・ご支援はこちらから



皆さまからの温かい支援を
お願いいたします

[継続的な寄付](#)

[今回のみ寄付](#)

外国における 早期減災アクション (ANTICIPATORY ACTION ABROAD)

インターン生の村上です。前回に引き続き、今回は国外の早期減災アクションの事例やトレンドをお伝えしたいと思います。

▶前回の日本における早期減災アクションについての記事はこちらから。



2023年の成果と現状

日本をはじめ、アジア太平洋地域は、洪水、干ばつ、台風などの自然災害に頻繁に見舞われる世界的に高リスクな地域です。そのため、早期警戒システムや減災アクションの分野は比較的進展していると言えます。

Anticipatory Action in 2023: A Global Overviewのレポートによると、2023年には47か国で107の枠組みが稼働し、10.9百万人が支援対象となりました。前年と比較すると、対象人数が43%増加するなど、国際的にも早期減災アクションの取り組みが大幅に拡大していることが分かります。例えば、モザンビークでは、政府主導で干ばつ対策が実施され、早期警戒メッセージの発信や現金支援が行われました。西アフリカでは、新たにFAO（国際連合食糧農業機関）が農作物保護とコミュニティの洪水対策を実施しました。

《出典》

[Anticipation Hub.Anticipatory Action in 2023: A Global Overview](#)



課題と推進計画

現在、早期減災アクションの普及に向けた課題として重要視されているものの一つが、気象予測のレーダーや早期警報システムなど技術的知識の欠如です。特に低所得国や技術基盤の弱い国でその影響が顕著です。また、紛争地域のような危機下では、対策の効果が限定的であったり長期的な持続可能性に関するデータも十分ではありません。これらの課題を解決するためには、早期減災アクションを国や地域の政策に組み込み、より広範な取り組みとして位置づけたり、活動を支えるための資金を多方面から確保したりといった、政策、資金、人材の全てを整備する必要があります。

《出典》

[Asia Pacific Anticipatory Action. Anticipatory action in Asia and the Pacific Asia-Pacific Technical Working Group on Anticipatory Action Regional Roadmap 2023 - 2027](#)

インドネシアの事例

インドネシアの中部ジャワとジョグジャカルタ特別州は、国内で最も高い頻度で災害が発生しています。ジョグジャカルタのCaturtunggal村にあるPB Palma GKJ Ambarrukma（信仰に基づく災害対応組織）は、地域のガジャ・ウォン川ケアグループ（KPGW）と協力し、洪水時の緊急対応を支援するための革新的なDRR（Disaster Risk Reduction・災害リスク軽減）システムを開発しました。このシステムには、早期警報システムや緊急機器の備蓄増強が含まれており、このシステムにより災害の影響が緩和されつつあります。

しかし、すべての近隣コミュニティがこうしたシステムの設置に前向きでないのが現状です。ガジャ・ウォン川沿いに住むほとんどの人々は、人口密度の高いインフォーマルな居住地で過密な家屋に住んでおり、高齢者をはじめとした災害弱者の人口が多いのが特徴です。日々の生存が最優先される中では、長期的な開発への関心は薄れがちになってしまいます。この事例からも、気候変動に対する意識の向上を促すための教育や啓発活動がいかに重要であるかが伺えます。

《出典》

Taylor Lemmon; Lorenzo Fellycyano. Education, Collaboration, and Innovation: How Increasing Awareness of Climate Change Can Support the Expansion of Community-Led DRR Projects.2023.1.25

これからのビジョン

早期減災アクションに関する調査を通じて、日本や世界中で多くの命が救われている事例に感銘を受ける一方で、災害弱者のサポートの難しさや技術面での格差などが普及の妨げとなっている現状も見えてきました。

わたしもCWS Japanにおいて複数の海外事業に携わらせていただきましたが、以前より、災害という文脈において多くの知見を有する日本が、海外で支援を行うことの意義を感じています。政府や専門機関だけでなく、わたしたち学生を含む多様な主体が減災の重要性を理解し、広い視野を持って推し進めていくべきだと感じます。

今年度をもってわたしのインターンは終了いたしますが、今後も災害という視点から研究や調査を続けていくつもりです。インターシップを支援していただいた皆さま、本当にありがとうございました！

(文：インターン 村上琴美)

さまざまなSNSで 情報をお届けしています

CWS Japanでは各種SNSで、日ごろから情報をお届けしています。お好きな方法で最新情報をぜひチェックしてみてください



各種SNSは
ここをクリックor
QRコード読み込み



認定NPO法人CWS Japan @Japan_CWS · 1月31日
\チャパティづくり教室と夜カフェを開催|1月のコミュニティ・カフェ@大久保/新宿区・大久保地域にて2回オープンしているコミュニティ・カフェ@大久保 @commucafe2023 ですが、今月も好評企画の料理教室や夕々の夜カフェ企画も行いました。レポート記事をお届けします👉



note.comから



637 投稿 1,206 フォロワー 2,097 フォロー中

認定NPO法人CWS Japan

@cws_japan

CWS Japanは国内外で災害対応・防災支援をするNPOです。2011年の東日本大地震を機に、日本での活動を開始しました。

災害時に支援の手が届かず取り残される人々を... 続きを読む

linktr.ee/cwsj



日本



アフガニス...



イベント・...



アドボカシ...



インドネ...



チャパティづくり教室と夜カフェを開催|1月のコミュニティ・カフェ@大久保



外国における早期減災アクション (Anticipatory Action Abroad)



CWS Japanメンバーに2025年の抱負を聞きました



CWSJapan

CWS Japanは国内外で災害対応・防災支援をするNPOです。2011年の東日本大地震を機に、日本での活動を開始しました。

毎週金曜日に団体の活動や職員の想いを載せた記事を配信しています👉

CWS JAPANメンバー に2025年の抱負を聞 きました

こんにちは、コミュニケーション担当・一色
です。1月も終わろうとしています、皆さ
さん今年の抱負は決まっていますでしょ
うか。CWS Japanメンバー12名に、今年
の抱負として漢字一文字を選んでもら
い、選んだ理由を聞いてみました。

みんなの抱負

「躍」

2025年はCWS Japanにとって、個人的にも、
飛躍の年としたいと思っています。新たなチ
ャレンジに正面から向き合い、常に学びなが
ら仲間たちと価値創造を積極的にしてい
きます！（事務局長・小美野剛）

「輪」

一人で抱えきれないような困難な課題に直面
した時、周囲に助けを求めることがありま
す。一つ一つの小さな助け合いの輪がチェ
ーンのようにつなぎ合わされていくことが、こ
の仕事のやりがいになっており、喜びになっ
ています。一人でも多くの方がこの輪に加わ
ってくれることによって不可能を可能にでき
るよう祈ります。（ディレクター・牧由希
子）

「皮」

今年は巳年。人生何回目かの年男のわたしに
っては、区切りの年。
蛇の成長といったら「脱皮」。
無駄な皮下脂肪は脱ぎ捨てて、新たな挑戦
にも丸呑みする勢いで取り掛かり、中身が大
きく成長する年にします。
もちろん好きな焼き鳥は「とり皮」です。
Dappy New Year!（ディレクター・五十嵐
豪）

「結」

人との出会いや新たな学びを通じて縁を結
び、自分の中に眠る可能性を引き出したいと
考えています。これまでの自分と新しい自分
を結び合わせながら成長を積み重ね、その成
果を人のために活かせるような一年にしたい



との想いを込めました。（プログラムオフィ
サー・浜田由美子）

「実」

主に以下の4つの意味を込めて「実」にし
ました。

- ①実直：実直に自分に与えられた役割ややるべきことに取り組みたい。
- ②着実：着実にスキルや経験を積み重ねて成長していきたい。
- ③実現：やってみたいことや願いを少しでも形にして実現していきたい。
- ④充実：実りのある充実した一年に！（プロジェクトオフィサー・五十嵐望美）

「満」

去年は子どもが4歳になり、育児に少し余裕
が生まれたこともあって充実した一年でし
た。世の中は激変しており、人道支援の二
ーズは高まるばかりですが、良くも悪くも新
しい時代に入るので、自分も脱皮して変化につ
いていきたいと思えます。（ATIH担当・打田
郁恵）

「新」

2025年は、仕事もプライベートも「心機一
転」新しい変化を生み出す年にしようと意気
込んでいます。「2025年」一度しかない時間
を、常にポジティブに「情熱」と「愛情」を
持って自分の人生に取り組んで行きたいと思
っています！（パキスタン事業担当・モンサ
ント朝子）

「一」

いろいろなことのの一つ一つ、一步一步、そし
て一日一日を大事にすることをあらためて心
掛けて、よかったなと振り返られる一年にし
たいと思えます。広く世界全体も、よい一年
になりますように。（アドミン・ファイナ
スマネージャー・高松知文）

「然」

去年は、自身の身の回りだけでなく、世界が混沌に覆われていたと感じています。その中で小さな違和感を覚え、それが不安や焦りに繋がることもありました。

日々状況が目まぐるしく変化する中でも、先入観を持たずに、今大切なことは何か、今自分にできることは何かを考え、心が常にナチュラルでいられるよう選びました。（アドミン・ファイナンスオフィサー・清川絵夢）

「鍛」

たくさん教わり、たくさん歩き、たくさん身につける1年にしたいと思っています。地に足のついた仕事ができるように、自分自身を鍛えていきます。（コミュニケーション担当・大屋千春）

「築」

昨年出産し家族が増えたこともあり、新たな生活スタイルや働き方を築く1年にしたいと思っています。また、PRは関係構築を目指す機能であるという原点に今一度立ち返り、インプットとアウトプットの質と量を高めていきたいです！（コミュニケーション担当・高橋明日香）

「拡」

今年はコミュニケーション担当としての職能をもう少し「拡」げられたらなあと思っています。2024年の仕事を通し、「もっと自分のスキルを磨いてチームに貢献したい」と思いました。インタビュー記事を書けるように、ライター修行に出られたらなあと、密かに野望を抱いています。（コミュニケーション担当・一色あずさ）

メンバー全員の抱負、いかがでしたか。抱負を聞いてみると、各々の人柄が出ていたり、意外な一面が出ていたり、メンバーの想いに触れることができました。

多様なメンバーで構成されるCWS Japan。2025年も力を合わせて、「たった一人のためにでも、世界をつなげたい」という理念のもと、支援活動を続けていきます。引き続き、CWS Japanの活動にご理解とご支援のほど、お願い申し上げます。

（文：コミュニケーション担当

一色あずさ）



皆さまのご理解・ご支援を
心よりお願い申し上げます。

継続的な
寄付

今回のみ
寄付

チャパティづくり教室と 夜カフェを開催 1月のコミュニティ・ カフェ@大久保

皆さん、こんにちは！CWS Japanの五十嵐望美です。今月は能登半島地震から1年の日を迎えただけでなく、阪神淡路大震災からも30年と、災害支援を行うCWS Japanとしても、さまざまなメモリアルが重なった1ヶ月となりました。

さて、新宿区・大久保地域にて月2回オープンしているコミュニティ・カフェ@大久保ですが、今月も好評企画の料理教室や久々の夜カフェ企画も行いました。そんな1月のコミュニティ・カフェ@大久保のレポート記事をお届けします！

チュニジア流チャパティづくり

新年1回目のコミュニティ・カフェでは、「生地から作るチャパティ教室」を1月15日(水)に開催しました。



毎回人気のクッキング企画で満員御礼の中、今回はゲスト講師として大久保まつりでも出店していたチュニジア出身のジャレル&ハッサンとともにお届けする予定でしたが、当日はハッサンさんが体調不良となってしまう、急遽ジャレルさん一人でチュニジアのチャパティ教室を行うことになりました。

そんなアクシデントがありつつも、参加者の皆さんと手分けしながら、生地を混ぜ合わせてこねる作業からスタート！



生地を混ぜ合わせて、力強くこねていきました👊

©CWS Japan

こねた生地をしばらく発酵させるために待っている間、参加者の方が持ち寄ってくださったオーガニックのレモンを使って、追加でレモネードも作るなど機転をきかせた一品まで！ハチミツではなく、コンデンスミルクを使うのがチュニジア流。

そして、発酵させた生地をフライパンで焼き、北アフリカの調味料ハリッサやクリームチーズを塗り合わせながらツナなどの具材を詰めたら、チャパティが完成！！



具沢山のボリュームなチュニジア流のチャパティが完成です！©CWS Japan

チュニジアは北アフリカに位置する国ですが、食文化に対岸のヨーロッパの影響を受けています。そのようなヨーロッパ風のテイストがするチュニジア流のボリュームたっぷりのチャパティは、おいしいと大好評でした！参加者の皆さんが作り方を熱心にメモする姿も見られ、楽しんでいただいたようでした。



即席で作ったレモネードのドリンクと一緒に、チャパティを味わいました！©CWS Japan

久々の夜カフェ 国際的事業者交流会

1月29日(水)には久々の夜カフェとして、新大久保商店街振興組合顧問の伊藤節子さんをゲストにお招きし、国際的事業者交流会・通称「四か国会議」の創設メンバーとして、同会議の立ち上げ経緯から、これまでの地域での取り組みや課題について、お話をうかがいました。

また、多国籍タウン大久保が大規模災害に襲われた時のための備えや対策についても参加者を交え、ディスカッションしました。

今回は地元からの参加者の割合が非常に高く、このテーマへの地域関係者の興味関心の高さを感じさせられました。

今後もさまざまな関係者を呼んでお話をうかがうケーススタディを通して、多文化共生や防災について議論や関係性を深めていけたらと思います！

2025/1/29 夜カフェ 国際的事業者交流会



2月のカフェ企画のお知らせ

2月のカフェは、2月2日(日)に大久保地域センター主催のジョイント企画を開催予定のため、第1水曜日の2月5日(水)はお休みをいただき、第3水曜日の2月19日(水)は通常通りの営業を行います。

毎文化・多世代共生のための大人の居場所

日時：毎月第1・3水曜日 13:00-17:00
場所：日本福音ルーテル東京教会
 東京都新宿区大久保1-14-14 (JR新大久保駅から徒歩5分)

2月の予定

第1水曜日(2/5)はお休みです！

| 営業日 | イベント企画 |
|-------------------------|--|
| 2月2日(日) 11:00-14:00 | そばがきでネパールカレーを味わう！ (事前申込制@大久保地域センター) |
| 2月19日(水) 14:30-15:30 | 大人のためのウクレレと絵本のおはなし会(参加費無料、予約不要) |

*イベントの内容・日程は事前のアナウンスなく変更する可能性がありますのでご了承ください。

最新情報はSNSでお知らせしています！

2月2日(日)は大久保地域センターとの初めてのジョイント企画として、「そばがきでネパールカレーを味わう！」を大久保地域センターにて、開催します。

みなさんは「そばがき」がネパールでも食されていることをご存知ですか？日本ではそばつゆで食べますが、なんとネパールではカレーと一緒に食べるそうです。

そばは欧米で現在流行中のグルテンフリー食品。コミュニティ・カフェ@大久保の企画で料理企画や地域の祭りでの出店者として度々参加していただいている新大久保イスラム横丁の人気店、ソルティカージャガルのジワンさんファミリーと一緒に手作ります。

ネパール料理のそばがき作りに興味がある方は、大久保地域センター宛にお申込み下さい。

大久保地域センター管理運営委員会 新規事業

世界を知る・世界を味わう講座 ～ネパール編～

ネパールの食文化に日本との共通点を見つけた
そばがきでネパールカレーを味わう！

2/2(sun) 11:00～14:00

大久保地域センター 3階 調理工作室

協力：コミュニティ・カフェ@大久保 (NPO 法人 CWS Japan)



プログラム

- ① オープニング
- ② レクチャー
ネパールの国、人々の暮らしを学ぶ
- ③ 調理実習と試食
ネパールカレー2種
(チキン・ベジタブル)
そばがき
- ④ ディスカッション
食後のチャイを飲みながら

講師 ■ グルン・ジワン・クマル (ソルティカージャガル 店主)

ソルティカージャガルは百人可イスラム通りにあるネパール料理店です

対象 ■ ネパールに興味のある方、ネパールカレーを作りたい方

定員 ■ 区内在住・在勤・在学の方 20名

費用 ■ 1,000円 (食材費) 当日、受付時に徴収します

持物 ■ エプロン、三角巾、手ふき用タオル

調理時はマスク着用にご協力ください

申込み・問合せ ■ 大久保地域センター 4階事務局窓口 電話予約可

新宿区大久保 2-12-7

TEL03-3209-3961 / FAX03-3209-3962

【写真撮影許可のお願い】当センター広報誌『さわやかおおくぼ』へ開催報告記事掲載のため会場写真を撮影します。他の目的には使用しませんのでご了承ください。

事前申込制

2月19日(水)のカフェでは、以前の企画で登場していただいたウクレレ愛好会のカサブランカによるウクレレ演奏と、大人のための絵本の読み聞かせとのコラボ企画となります。

寒さが厳しい季節となっていますが、音楽と物語でホッと暖まるひとときをご一緒しましょう。

冬の中の愛

大人のためのウクレレと 絵本のおはなし会

2025. 2.19(水) 14:30-15:30

会場 日本福音ルーテル東京教会
東京都新宿区大久保1-14-14
(最寄り駅：JR新大久保駅、100円ショップCan Do並び)

参加費無料・予約不要

新宿区内で活動するウクレレ愛好会カサブランカ & ストーリーテリングによるコラボ企画

ウクレレ演奏 | 絵本のおはなし会

寒い冬と一緒にウクレレ演奏による歌声とお話で心を温め合いましょ！

主催：コミュニティ・カフェ@大久保
問い合わせ：CWS Japan 牧 (03-6457-6840、public@cwsjapan.jp)

居場所を失った人への緊急活動応援助成

厳しい寒さの日々が続いていますので、体調にはお気をつけて、お過ごし下さい。そして、お時間が合えば、温かいコーヒーも準備しておりますので、ぜひコミュニティ・カフェ@大久保にお立ち寄りください。

(文：プロジェクト・オフィサー

五十嵐望美)

特定非営利活動法人CWS Japan

〒169-0051

東京都新宿区西早稲田2-3-18

日本キリスト教会館25号室

メールアドレス：

public@cwsjapan.jp

電話：

03-6457-6840



CWSJapan



@Japan_CWS



cws_japan